

資源管理型漁業推進総合対策事業（地域重要資源） トゲクリガニ（川内地区） （要 約）

塩垣 優・吉田 達¹⁾

陸奥湾特産種である本種の資源生態を明らかにし、効果的な資源管理方策を策定するための科学的根拠を提示することを目的に今年度は下記の調査を行った。なお、詳細については「平成4年度資源管理型漁業推進総合対策事業報告書（地域重要資源）青森県、平成5年3月」として報告済である。

1. 既往知見の整理

本種に関する生態的知見を中心とした既往文献12編をリスト・アップした。

2. 前記の文献から以下の項目に関する知見の取りまとめを行った。

- 1) 生活史
- 2) 成熟
- 3) 夏眠
- 4) 抱卵
- 5) 漁獲サイズ及び漁獲時期
- 6) 漁場
- 7) 標識放流による移動状況

3. 漁獲統計調査

陸奥湾産トゲクリガニは公式統計の調査対象種となっていない。そのため、県漁政課が湾内各漁協より集計した昭和55－59年度の調査結果及び川内町漁業協同組合における昭和55－平成3年度の総漁獲量、銘柄別漁獲量等の取りまとめを行った。

4. 標本船調査

カニカゴ専業漁業者の中から10名を選定し、平成4年11月から終漁まで毎日の操業内容を記録してもらい、今後の資源管理の基礎資料とする。記録内容は漁場位置、投入カゴ数、揚カゴ数、漁獲カニの銘柄別個体数等とし、漁獲努力当たりの漁獲個体数から凡その分布密度、時期別の漁場の変化等を把握できるものとした。

1) むつ地方水産業改良普及所

5. 市 場 調 査

市場に水揚げされた個体の内、銘柄別に、月2回、100個体ずつの甲長、体重測定を平成4年11月より実施中である。漁期終漁期まで継続実施する予定である。

6. 魚 体 測 定 調 査

生殖巣の発達に関しての情報が殆どない現状にある。それは、本種の特異な半年に及ぶ夏眠現象に起因しており、この期間の標本採集が殆ど不可能なことによる。漁期間中の標本は抱卵中、孵化させて間もなくの水ガニ、あるいは卵巣が再び回復に向かう未熟の状態にあり、成熟は夏眠期間中に急速に進行するものと考えられる。したがって、成熟、受精、排卵、並びに抱卵に到る過程を明らかにするためには、夏眠期間中の標本を定期的に採集することが是非とも必要である。

7. 回 遊 移 動 調 査

標識放流による移動状況の確認を行う予定である。放流後すぐ再捕されることを防ぐため、漁期終漁間近に放流する予定である。標識は背甲縁に穿孔してビニールチューブを通し、これにディスクを結着する手法を予定している。